# 知られざる
# ランチェスター先生の経歴

【マル秘メルマガ】より　　25 通目その 2

## ◆ランチェスター研究所を法人化

57 歳になった 1925 年にダイムラー社は、それまでの研究所を株式会社ランチェスター研究所として法人化することを認めたので、兄は自分が関係していたものをこの会社にまとめた。
目的は、一般の会社のために研究をすることと、実験に基づいた仕事をすることであった。

それ以外の生産品の中には、高音質再生装置のラジオを生産しよう、というものであった。
しかし 1931 年頃、金詰まりのために兄達の目的は達成されず最終的に兄は高品質なラウドスピーカーを生産することにした。

完璧に仕上げられた設計は、その当時としては比類のないものであった。

ラウドスピーカーの一般的な欠点は、スピーカーの磁石用コイルに流す直流の脈流によって引き起こされる、低音のノイズである。
それは、ブーン、という低音の振動であった。

そのコイルの自然な振動に対して兄が設計したのは、音階の一番高い所の音を低くすることであった。

この生産事業への介入は、ある日突然終わりを告げる事になった。理由の一部としては、ある会社から請負っていた仕事を終わらせるときに、同僚の失敗で損失が出、財政的負担がひどくなったからである。

しかし主な理由というのは、兄は 1937 年、辛うじて死からまぬがれる病気にかかったことによるものであった。

## ◆個人の生活

兄は、1919 年 51 歳のとき、ノース・ランクスのフィールドブラフトンに住む牧師トーマス・クーパーの娘で、14 歳年下のドロシーと結婚した。だが子供には恵まれなかった。

楽しみはヨットと音楽で、全ての事においていつも自分の楽しみを忘れる人ではなかった。

兄は完成されたヨットマンであり航海者でもあった。

音楽では、40 歳の頃になって声の訓練を始めた。

多分、それは講義をする時のためだったと思うが、たくましい高めのバリトンであった。
音楽に対する情熱は、段々にクラッシックへと傾いていった。

兄はドイツの歌曲と、ワーグナーの壮大なオペラに引かれるようになり、また自分で作曲する事にも興味を持ち始めた。

兄は田舎の生活が大変好きで、最も多くの発明をした数年は、バーミンガムから 20Ｋｍほど離れた農場に住んでいた。

兄はまた、ユーモアのセンスもたくみで、しばしば討論会などでそのセンスを発揮し、ますます磨きがかけられた。

1937 年にかかった病気とはバセドウ氏病で、この病気から完全に回復することが出来ず、徐々に悪くなっていき、仕事は制約されるようになった。

ただ幸いなことに頭脳はしっかりしていた。

そのあと、視力はうすくなり、さらに手の一部は通風になるという不運にあったにもかかわらず、多くの科学的成功を成し遂げた。

しかし、1937 年にかかった病気は徐々に悪くなっていき、これが良くなることなく、1946 年 3 月 8 日、自宅で永眠した。満 77 歳であった。

（完）

ジョージ・ハーバード・ランチェスター

▼――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――▼

フレデリック・W・ランチェスターの墓は、ロンドンから南 30 ㎞ぐらいのところにある。交通は、国鉄のブライトン行き普通で「ヘイワードヒース」（Ｈａｙｗａｒｄｓ　Ｈｅａｔｈ）駅で下車、タクシーで 10 分ほど距離にある。

墓地の名前は、ウォルステッド・セントメリー。墓の入口から右側に 70～80ｍ行った道路のフェンス側の所にある。

［ランチェスターファミリー］

父　　ヘンリー・ジョン（1834 年～1914 年）
母　　オクタビア　　（1834 年～1916 年）
長男　ヘンリー・ボーラン（1863 年～1953 年）
長女　メリー　　（1864 年～1942 年）
次女　エレノア・キャロライン（1866 年～1926 年）
次男　フレデリック・ウィリアム（1868 年～1946 年）
三男　フランシス・チャリー（1870 年～1960 年）
三女　エディ　　（1871 年～　？ 年）
四男　エドワード・ノーマン（1873 年～1946 年）
五男　ジョージ・ハーバード（1874 年～1970 年）

▲――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――▲

◆日本訳の出版にあたって　　竹田陽一

この印刷物は、フレデリック・ランチェスターの業績に関する資料収集のため、1987 年（昭和 62 年）７月、妻の静子と長女の友子が訪英した際に入手したものを、著者の未亡人メリー女史に電話で承諾を得て日本訳したものである。

本文の始めに紹介されている「ガスエンジン」は蒸気機関のあとに出て来たもので、石炭ガスや天然ガスを燃料とした動力発生機であった。

このあと電気モーターや、ガソリンエンジンにとって変えられている。平凡社の世界大百科辞典にもガスエンジンとしてはのっていないところから、生産された期間はあまり長くはなかったらしい。

本文に紹介されている記事は自動車に関するものが中心で、日本で知られている、ランチェスター法則に関しては１行も出て来ず、解説もされてない。

実弟が、兄について書きあらわした紹介文がこうであるから、英国においてランチェスターといえば「自動車」という言葉が返ってきて、法則については全く知られてないのは不思議なくらいである。

Lanchester　ランチェスター経営（株）
〒810-0012　福岡市中央区白金 1-1-8　チュリス薬院 301
TEL　092-535-3311　FAX　092-535-3200
メールアドレス customer@lanchest.co.jp　HP　https://www.lanchest.com